株式会社ニチレイ 〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
e-mail：o3g-n1000x040@nichirei.co.jp（財務部 コーポレートファイナンスグループ　株式担当）

配当金のお支払いについてのご案内

第104期期末配当金は、次のいずれかの方法により、2022年6月27日（月）からお支払い申し上げます。

■口座振込にてお受け取りの株主様

「配当金計算書」および「お振込先について」を同封していますので、ご確認ください。

■株式数比例配分方式をご指定の株主様

「配当金計算書」および「配当金のお受け取り方法について」を同封しています。なお、源泉徴収税額計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の際は、お取引の証券会社等へご確認ください。

■配当金領収証によりお受け取りの株主様

同封の「第104期期末配当金領収証」記載のお支払い方法をご高覧の上、最寄りのゆうちょ銀行本支店・出張所および郵便局（銀行代理業者）にて、払渡しの期間内（2022年6月27日（月）～2022年7月29日（金））にお受け取りください。なお、同封の「配当金計算書」は、配当金をお受け取り後の配当金額のご確認資料としてご使用いただけます。

■次回より口座振込をご希望の場合

証券会社等に口座をお持ちの株主様はお取引の証券会社等にて、特別口座の株主様はみずほ信託銀行にて、それぞれお手続きください。

株式事務に関するご案内

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等	〒168-8507　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル　0120−288−324 受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日を除く）
各種手続お取り扱い（住所変更、配当金受け取り方法の変更、単元未満株式の買取・買増等）		みずほ信託銀行　本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんので、ご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行およびみずほ銀行　本店および全国各支店	
支払明細の発行	みずほ信託銀行　証券代行部（フリーダイヤル　0120−288−324）にご相談ください。	

単元未満株式をお持ちの株主様へのご案内

■単元未満株式は市場で売買できません。買取・買増については、お取引の証券会社等にご相談ください。
■特別口座にある株式の買取・買増については、みずほ信託銀行にご相談ください。
（特別口座では単元株の売買ができないため、売買をご希望の方は、証券会社等に口座を開設し株式を振り替えていただく必要があります）

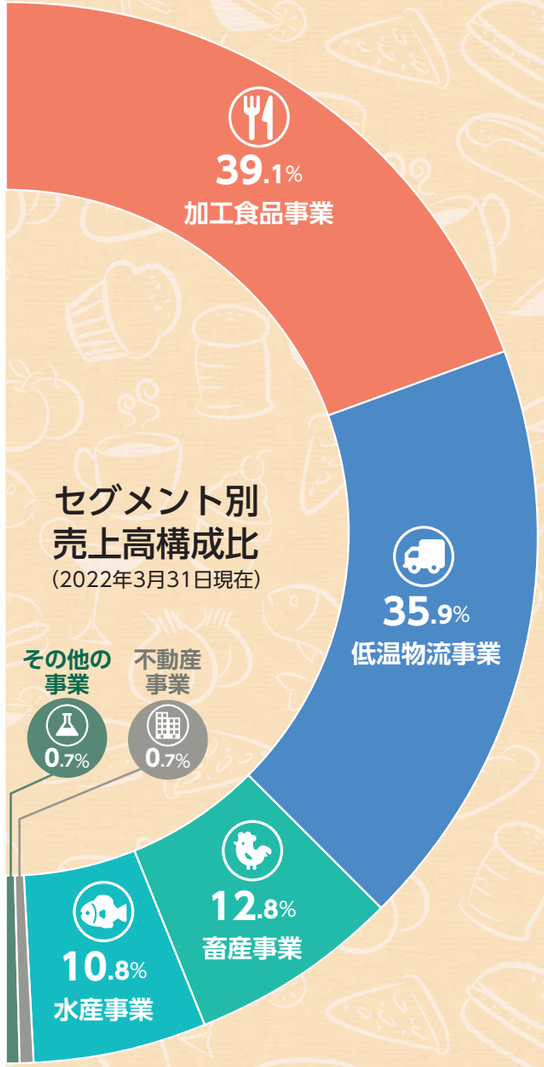
UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080 www.fsc.org
PRO-WE PROJECT-With the Earth この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT-With the Earth を通じてオフセット（相殺）しています。

HOPPE ほっぺ

Vol.48

第104期　株主通信
2021年4月1日～2022年3月31日

株式会社ニチレイ　証券コード：2871



セグメント別売上高構成比
（2022年3月31日現在）

おいしい瞬間を届けたい

ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ビジョン【目指す姿】

私たちは地球の恵みを活かしたものづくりと、
卓越した物流サービスを通じて、
豊かな食生活と健康を支えつづけます。

株主の皆様へ

新中期経営計画「Compass Rose 2024」初年度に当たって

代表取締役社長
大櫛顕也

はじめに、ウクライナや近隣諸国で被害を受けられている多くの方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々へ謹んで哀悼の意を表します。一日も早く安全で平和な日常が取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。

第104期株主通信をお届けするに当たり、日頃のご支援に厚く御礼申し上げます。

当期における世界経済は、欧米諸国を中心に経済活動が再開されて回復傾向にあり、一部では景気の過熱感から金融引き締めの動きも見られました。また、わが国経済においても、行動制限の緩和により経済活動が動き始めましたが、変異型ウイルスの感染拡大の懸念やウクライナ情勢等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

食品関連業界では、食生活のスタイルに大きな変化が生じ、新常態に向けた商品・サービスが広がりましたが、原材料の高騰により業界全体で価格改定の動きが顕著になりました。また、労働力不足や新型コロナウイルス感染防止に対応すべく、先端技術を活用した自動化や省人化へ向けた動きも加速しました。

当社グループは、生活を支える社会的基盤として、従業員を含むサプライチェーン上の安全に十分配慮したうえで企業活動を行いました。また、長期経営目標「2030年の姿」の実現に向け、特定した5つのグループ重要事項（マテリアリティ）ごとに、グループ目標（施策・KPI）を策定しました。

2022年度は、ニチレイグループ新中期経営計画「Compass Rose 2024」の初年度という重要な年になります。本計画では、サステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」に基づく事業活動を通じて、豊かな食生活と健康を支える企業としての社会的責任を果たしつつ、資本効率を追求した経営に取り組み、社会的価値と経済的価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月吉日

トップインタビュー

TOP Interview

今期から、新中期経営計画「Compass Rose 2024」がスタートしました。
事業を取り巻く環境が大きく変化する中で、長期的視点を持ちつつ課題やリスクに対してどのように対応をしていくのか、大櫛顕也社長に話を聞きました。

株式会社ニチレイ
代表取締役社長　大櫛 顕也

Q1 「Compass Rose 2024」に込めた思いを聞かせてください

A1 「Compass Rose(コンパス ローズ)」とは、地図や海図に東西南北の方位を示すために置かれる羅針図です。その基準方位N(North)に、ニチレイのシンボルマークを重ねました。私たちが目指す先には、2019年に改定した企業経営理念と長期経営目標「2030年の姿」がありますが、そこに到達するためにはこの3か年での戦略的取り組みが重要になると考えています。事業を取り巻く環境が大きく変化する中で、本中期経営計画を2024年への未来地図として、全社一丸となって力強く航海できるように、という思いを込めました。「Compass Rose 2024」では、経済的価値の向上と社会的価値の向上を両軸としてサステナビリティ経営を加速してまいります。ニチレイグループは、持続可能な社会の実現に対する期待をビジネスチャンスとして捉え、様々なステークホルダーの皆様とともに社会課題を解決することで、新たな競争優位性を獲得し、企業価値の向上を図っていきます。その上で、「2030年の姿」を実現し「さらに100年続く企業」へ向かっていきたいと考えています。

Q2 前中期経営計画についての成果と課題は?

A2 業績面においては、前中期経営計画「WeWill 2021」初年度から順調な滑り出しであったものの、急激な事業環境変化の影響で、残念ながら最終年度において営業利益の大幅な計画未達となりました。各事業を振り返りますと、まず加工食品は、計画2年目まで主力カテゴリへの集中投資等による売上高拡大とそれに伴う収益力でグループを牽引してきました。しかしながら、最終年度においてはコロナ禍の影響や原材料の調達価格高騰化などに見舞われ、収益基盤再構築および収益力の強化が急がれます。一方、低温物流事業は、営業利益額および利益率で中期経営計画値を大きく上回り、グループ全体をけん引する成果を見せております。また、欧州における港湾ビジネスなどの成長分野への積極投資により海外事業の拡大が順調に進んでいます。

グループ全体での取り組みでは、SDGsの視点において社会課題を解決する新たな価値の創造や持続可能な調達、気候変動への取り組みなどをグループ重要事項(マテリアリティ)として明確に定めました。「Compass Rose 2024」では、この目標達成に注力しつつ、ESGへの取り組みを強化してまいります。

Q3 外部環境の変化をどう捉え、どのような対応をしていきますか?

A3 新型コロナウイルスによってもたらされた混乱は長期化していますが、ワクチン接種が進み重症化率が低下するなどし、行動制限が緩和されてきており、コロナの影響そのものはいずれ収束していくでしょう。一方で、今回のパンデミックが引き起こした社会構造の変化、とりわけ生活者のライフスタイルや経済界における各企業の行動様式が以前のように戻るとは思えません。このことによる需給バランスの波動影響に加え、地政学的なリスクも顕在化しており、これまでの前提としてきた環境認識や事業の在り方を根本から問い直していく必要があると考えております。特に大きな影響とみているのは、世界規模での農畜水産物の生産と需要に関する変化です。気候変動による作物の収穫減少や台風などの被害増加のリスクに加え、新興国の人口増加や経済成長によって食糧需要が増加し、価格上昇が起こるなど、長期的視野での対応が必要になってきます。今後の安定調達のためには、それらを踏まえ、環境や人権問題にも配慮したサプライチェーンの再構築が不可欠です。サステナビリティ経営を加速するうえでの重要項目の一つとして「Compass Rose 2024」に具体的なアクションプランとして盛り込み、しっかりと取り組んでいきます。

Q4 経済的価値と社会的価値の両立をどのように実現していきますか?

A4 今までは社会的価値への取り組みは、社会貢献活動という狭義な考え方をされることもあり、経済的価値とは別物と考えられることも多かったと思います。今後は、社会課題は事業活動の大きなリスクであると同時に、社会課題の解決を事業戦略と一体となり取り組むことが、社会的責任を果たすとともに利益成長にとっても不可欠です。経済活動の中で地球環境や人権に配慮することは、今や投資家をはじめとするステークホルダーに対する企業の責任であり、社会課題の解決がビジネスチャンスにつながり、経済価値の創出にもつながっています。この考え方を前提に、「Compass Rose 2024」では、長期経営目標「2030年の姿」に加えて「5つの重要事項(マテリアリティ)」のKPIを設定し、具体的な取り組みを進めてまいります。例えば、大きな課題の一つである二酸化炭素の排出削減については、2050年のカーボンニュートラルを見据えた上での目標値と行動計画を設定し、再エネ投資なども積極的に進めながら、脱炭素に取り組んでいきます。また、社会的価値向上につながる部分でもIT・DXなどのデジタライゼーション技術を活用していきます。各戦略の進捗と効果を「見える化」することで、情報開示などの企業の説明責任の質を高めていけるものと考えております。

Q5 グループ成長のためにどのような投資をしていきますか?

A5 「WeWill 2021」に引き続き「Compass Rose 2024」でも大型投資を計画しています。今回は、事業基盤強化のための成長投資に加え、気候変動対策などの環境投資を進めていきます。サステナビリティ経営を加速していく上で、社会課題解決と企業価値の向上は表裏一体の関係にありますが、特に対応を急がれるのが環境負荷軽減への取り組みです。新増設や既存主力拠点の自然冷媒化や高効率な冷凍・冷蔵技術導入による使用電力量の削減、太陽光等の再エネ投資など、積極的な環境投資を行っていきます。成長投資については、特に加工食品事業と低温物流事業に資源配分を行います。加工食品においては、既存事業強化のための設備投資に加え、新たな価値を社会に提供していくために欠かせない技術開発や研究への投資に注力していきます。また、低温物流においては、主力港湾地区や幹線物流の中継拠点への投資を計画しています。特に、物流業界では、喫緊課題として働き方改革関連法の施行によるドライバー不足問題(2024年度)に直面しており、ニチレイロジグループにおける幹線事業のインフラ整備を早期に完了することで、社会課題解決と新たなビジネスチャンスの創出につなげていけると考えています。さらに成長投資の一つとして重視しているのが、人財投資です。女性をはじめ多様な人財が活躍できるための制度整備や教育に力を入れていきます。特にサステナビリティ人財の開発やデジタルスキルの習得については、積極的に取り組んでいきたいと考えています。これらの投資は、総額として過去最大規模となります。そのため、一時的には資本効率への影響がでますが、「2030年の姿」の実現に向けて「競争優位性を高めるための先行投資」という位置づけです。引き続き、グループ全体でのポートフォリオを勘案し、より実効性の高い事業や分野へ資源を振り分けていきます。

Q6 株主の皆様へのメッセージをお聞かせください。

A6 株主通信をお届けするにあたり、日頃のご支援に厚く御礼申し上げます。当社を取り巻く環境は、ウクライナ情勢にみられるような不測の事態の発生も含めて、過去にないスピードで変化しています。このような時代の経営には、長期的視点を持ちつつも、目の前の課題やリスクに対して柔軟かつ迅速感を持った戦略転換を行い、企業価値を持続的に向上させていくことが大切だと考えております。「Compass Rose 2024」では、豊かな食生活と健康を支えつづける企業として、加工食品事業と低温物流事業を中心とした戦略展開でグループ総合力を発揮するとともに、健康価値に着目した将来に向けての新しい価値の創出にも積極的に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ニチレイグループ 2022年度-2024年度中期経営計画「Compass Rose 2024」※の概要

ニチレイグループは、2022年度から2024年度までの3年間を対象期間とするグループ中期経営計画「Compass Rose 2024」をスタートいたしました。

※Compass Rose（コンパス ローズ）とは、地図や海図に東西南北の方位を示すために置かれる羅針図形のことであり、基準方位である「N」をニチレイのシンボルマークと重ね合わせています。

1 新中期経営計画基本方針

ニチレイグループは、サステナビリティ基本方針に基づく事業活動を通じて、豊かな食生活と健康を支える企業としての社会的責任を果たしつつ、資本効率を追求した経営に取り組み、社会的価値と経済的価値の向上を目指してまいります。

その実現のため、投下資本利益率（ROIC）に基づく事業ポートフォリオマネジメントを導入するとともに、成長分野への設備投資、海外事業拡大、新規事業、デジタル活用による業務革新などに経営資源を優先的に配分していきます。また、社会課題を解決する新たな価値の創造や持続可能な調達、気候変動への取り組みなどのグループ重要事項（マテリアリティ）の目標達成に注力しつつ、ESGへの取り組みを強化してまいります。

2 財務戦略

営業キャッシュ・フローと資産流動化により創出された資金は、企業価値の維持向上のための投資と配当や自己株式の取得を通じた株主還元に振り向けます。

株主還元については、連結自己資本配当率（DOE）を基準として安定的な配当を継続するとともに、資本効率や市場環境などを考慮のうえ自己株式の取得を機動的に実施することを基本方針とします。

連結自己資本当期純利益率（ROE）は10%以上を維持

連結自己資本配当率（DOE）3.0%を目安に配当を実施

グループ連結の目標数値

	目標（2024年度）	増減（対2021年度）
売上高	6,600億円	573億円
内 海外売上高	1,300億円	324億円
営業利益	370億円	56億円
純利益※1	245億円	11億円
EBITDA※2	650億円	125億円
設備投資額（3カ年累計）	1,200億円	270億円
ROIC	7%以上	−

※1 親会社株主に帰属する当期純利益
※2 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（リースを含み、のれんを除く）

2024年度 セグメント別目標数値

	売上高	営業利益
加工食品	2,750億円	184億円
水産	440億円	10億円
畜産	950億円	20億円
低温物流	2,600億円	162億円
不動産	48億円	22億円
その他	67億円	5億円
全社・消去	△255億円	△33億円
合計	**6,600億円**	**370億円**

ニチレイグループ サステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」へ改正

㈱ニチレイは、従来のニチレイグループCSR基本方針「ニチレイの約束」を刷新し、サステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」へ改正いたしました。2022年度より、この基本方針を軸に、持続可能性を重視した経営を実践してまいります。

サステナビリティ経営を推進していくため、持株会社の戦略本部にサステナビリティ推進部を新設いたしました。事業会社のサステナビリティ推進部門と協力、連携し取り組んでまいります。

なお、当社のサステナビリティ活動については、「ニチレイグループ統合レポート」に掲載しております。

ニチレイグループ 統合レポートはこちらから

https://www.nichirei.co.jp/ir/library/integrated.html

「ニチレイグループ 統合レポート2021」は、WICI ジャパン「統合リポート・アウォード2021」において最高賞である「優秀企業賞（ゴールド・アウォード）」を受賞しました。

ニチレイグループ サステナビリティ基本方針
「ニチレイの約束」
～持続可能な社会の実現に向けて～

ニチレイグループは、地球環境・地域社会に及ぼす影響に配慮し、人権を尊重しながら、食の「調達」「生産」「物流」「販売」などの事業活動を通じて新たな価値を創造し、社会課題の解決に取り組みます。そして、これらの活動をステークホルダーの皆様に広く公表し、対話を深めながら、持続可能な社会の実現に向けて、豊かな食生活と健康を支える企業としての責任を果たしていきます。

新たな価値の創造	新たな商品やサービスを創り出し、事業を通じてお客様および社会の課題を解決します
安全で高品質な商品とサービスの提供	多様なニーズにこたえ、高い品質と安全性、安定した供給を実現し、お客様と社会からの信頼を獲得します
持続可能なサプライチェーンと循環型社会の実現	継続的で良好なパートナーシップの構築を通じ、環境や人権・労働環境に配慮した、倫理的で持続可能なサプライチェーンと循環型社会の実現を目指します
気候変動への取り組みと生物多様性の保全	温室効果ガス排出削減、食資源や水資源の適切な管理などを通じ、地球環境と生物多様性の保全に努めます
社会との共生	社会の一員として、ステークホルダーと広く対話し、共に考え、行動することで、地域の発展や社会課題の解決に貢献します
人財の多様性の尊重と働きがいの向上	働く人の多様性を尊重するとともに、労働安全衛生の確保、公正な処遇、能力開発機会の提供に努め、個々の能力を最大限に発揮できる環境を実現します
コーポレートガバナンスの充実	適切な資源配分や意思決定の迅速化に努め、対話と情報開示を通じて、公正で透明性の高い経営を推進します
コンプライアンスの徹底	事業を展開する各国の法令の遵守、国際的な規範の尊重および企業倫理の徹底により、誠実な企業活動を実践します

大好評！レンジでチンする『冷やし中華』

簡便調理が可能なトレイ入り

1人前商品

㈱ニチレイフーズは、2022年3月に『冷やし中華』を発売しました。氷を使用した独自技術で、レンジ調理後も冷たい状態でお召し上がりいただけます。打ち立て、茹でたての自家製麺を急速凍結し、まるで生麺のような、喉越しの良い食感を実現しました。

ポイント1

※特許出願済

レンジで冷たく仕上がる新製法

氷がのった麺をそのままレンジ調理します。マイクロ波の影響を受けにくいという氷の特性を活用し、チンするだけで冷たく仕上がる独自技術を開発。手間なく簡単に冷え冷えの一皿をお楽しみいただけます。

調理前の商品

ポイント2

つるつる喉越し自家製麺

自社工場で打ちたての麺を急速凍結。まるで生麺のような、つるつると喉越しの良い食感です。

調理後の商品

ポイント3

こだわりの醤油だれと具材

特製醤油だれには3種類の酢を使用。具材には自家製煮豚、錦糸卵、きざみオクラ、紅生姜を入れ、彩り豊かに仕上げました。

NEW 2022年春季新商品

2022年春季に発売した新商品をご紹介します。

『むねから®』

塩麹・みりん・にんにくなどを使用した特製だれに漬け込み、しっとりとやわらかな食感に仕上げた鶏むね肉のから揚げです。東日本エリア限定の商品が、この春に全国発売開始となりました。
皮なしのむね肉に米粉を使用した衣でカラッと揚げることで、一般の鶏から揚げ※と比較し、カロリー30%オフ、脂質45%オフを実現しました。

※日本食品標準成分表2020年度版(八訂) [若どり・主品目]もも皮なしから揚げとの比較

『黒醤油炒飯』

中華料理店で人気の中国醤油を使った「黒醤油炒飯」です。
濃厚な旨味と芳醇な香り、真っ黒な色目が特長の中国醤油をたっぷり使い、旨味と香りを引き立てています。高菜漬け、オイスターソースを隠し味に加えることで、コク深い味わいに仕上げました。

『今川焼(抹茶クリーム)』

人気の京都宇治抹茶を使用した抹茶クリームの今川焼です。
渋みと甘さのバランスの良い宇治抹茶を使用し、奥深い味わいの濃厚なクリームに仕上げました。
生地にも宇治抹茶を使用しており、一口食べると抹茶の豊かな香りと風味が口に広がります。

アサリ漁業が「MSC漁業認証」を取得

㈱ニチレイフレッシュは、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）と協働し、2021年9月、中国黄海沿岸のアサリ漁業で、持続可能な漁業に与えられる「MSC漁業認証」を取得しました。

MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）漁業認証とは、水産資源や海洋環境に配慮し、適切に管理された持続可能な漁業に対する認証制度です。

黄海は、世界に9つある渡り鳥の移動ルート（フライウェイ）の一つ「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」であり、その自然環境は渡り鳥の休息や採食に欠かせない重要なエリアです。また、魚類や貝類など多様な生物が生息し、豊かな生態系を築いているのも特徴です。

㈱ニチレイフレッシュは、生物多様性の保全と水産物の持続可能な生産の両立を目指し、同沿岸域で漁獲されるアサリの現地加工会社、丹東泰宏食品有限公司とともに2016年より漁業改善プロジェクトを開始。調査を通じて漁業が生態系に与える影響を明らかにし、漁業管理計画のもとで中長期にわたる適切な管理を促進するなどアサリ漁業の改善を進めてきました。

これらの改善の結果、豊かな自然環境と資源に配慮した持続可能な漁業と認められ、認証取得となりました。

認証漁業で獲られた製品はMSC「海のエコラベル」をつけ、「サステナブル・シーフード」として流通することができます。

これからも生物多様性の保全と水産物の持続可能な生産の両立を推進するとともに、MSC認証のアサリ製品の普及に努めてまいります。

▲MSC「海のエコラベル」

家庭用水産加工品「ちょちょいと簡単」シリーズ 販売開始

㈱ニチレイフレッシュは、家庭用水産加工品「ちょちょいと簡単」シリーズを2022年1月より発売いたしました。

コロナ禍において、自宅で過ごす時間が増えたことで、家庭内での調理回数の増加や食事メニューの考案など料理に対する負担を感じられている方もいらっしゃるかと思います。

これらの課題解決に向けて㈱ニチレイフレッシュは、電子レンジで温めるだけ、お湯を沸かして茹でるだけなど、ワンクックで喫食可能な、簡便性の高い「ちょちょいと簡単」シリーズを開発しました。

まずは世代を問わず人気のあるえび製品「えびワンタン」「えび天ぷら」「えびフライ」からスタート。時間が無い働き世代や水産物の調理が苦手な方、少量多品種で食べたいという需要が増えている家庭用ルートを中心に展開してまいります。

今回のえび製品を皮切りに、今後は商品カテゴリーの拡充を図ってまいります。

えびワンタン

むきえびを丸ごと1尾包んだ、食べ応えのあるえびワンタンです。
レンジ調理のほか、茹でても揚げても美味しくお召し上がりいただけます。

えび天ぷら

カラっとした食感に仕上げたえび天ぷらです。
蕎麦やうどんのトッピング、天丼の具材としても最適です。

えびフライ

一口サイズのえびフライです。
尾付きで、弁当やサラダの彩りを華やかにできます。

加熱済　未加熱

物流施設へ新型ロボットの導入に向け実証実験を開始

㈱ニチレイロジグループ本社は、遠隔操作や人工知能ロボットの開発を手掛ける Telexistence株式会社（以下TX社）と協同し、物流施設の冷蔵エリアにおいて、TX社製遠隔操作ロボットがカゴ台車に混載積み付けを行う実証実験を行いました。

ニチレイロジグループでは、人手不足への対応や身体への負担が大きい冷蔵エリアでの作業負担の軽減、更には現場作業の「誰でもできる化」を目的とした業務革新に注力しており、人間と機械の双方の特性を活かした最適な作業体制の構築を進めております。今回の実験では、冷蔵エリアに配置されたロボットを、人間が事務所から遠隔操作（移動・作業）することで、物流センター作業におけるリモートワークとストレスフリーな作業環境構築の可能性を検証します。

今後も先端技術の導入や作業のデジタル化を積極的に推進し、お客様のサプライチェーンを支える持続可能な物流の実現に取り組んでまいります。

実証実験が行われた
㈱ロジスティクス・ネットワーク東扇島物流センター 庫内

オペレーターの視点

● 実証実験の映像はこちらから

https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2021/20220304_2.html

遠隔操作するオペレーター

キョクレイ本牧物流センターに太陽光発電システムを導入

ニチレイロジグループのグループ会社である㈱キョクレイは、2022年2月、CO_2排出量の削減に向けて本牧物流センターに太陽光パネルを設置しました。

今回の取り組みは、省エネ型省力化機器（パレット搬送型AGV※1）の導入とあわせて一般財団法人環境優良車普及機構による自立型ゼロエネルギー倉庫モデル促進事業の認定を受けております。これは本設備が、社会変革と物流低炭素化を同時に実現する先進的な技術の導入事例として評価されたものです。

今後も環境負荷の低減に取り組み、お客様のサプライチェーンを支える持続可能な物流の実現に努めてまいります。

※1 AGV（Automated Guided Vehicle）無人搬送車、無人搬送ロボット

本牧物流センター外観

NEWS

新発売！ お米を使った新素材「ごはんのみらい」

㈱ニチレイは、2022年1月にお米を使った新素材「ごはんのみらい」を発売しました。

「ごはんのみらい」は、独自の技術でお米を加工することで、糖質を50%カットし、低カロリーで高食物繊維を実現した新しい主食です。専用WEBサイトでは、管理栄養士監修の栄養素診断により、個人に最適な栄養素をお知らせするサービスや健康に役立つコンテンツもご利用いただけます。お湯を注ぐだけの簡単調理で忙しい方でも手軽に健康管理が可能です。

㈱ニチレイは、「ごはんのみらい」を通じて、これからもひとりひとりの健康やライフスタイルをしっかりとサポートしてまいります。

「ごはんのみらい」とは

お米を粉末状にし、米由来の食物繊維（レジスタントスターチ）を加えて作っています。通常の白米1食分と比べて、糖質を50%カットし、食物繊維は約10倍※を含有。馴染みのあるお米の形をしていますが、まったく新しい主食です。

※白米140gと「ごはんのみらい」1袋に含まれる栄養素を比較

商品の詳細はこちらから。
https://gohannomirai.jp/

商品概要

- ●商品名：ごはんのみらい
- ●内容量：50g/袋
- ●ラインアップ：全6種類
  - ・「プレーン」
  - ・「栄養素＋」（+亜鉛、+鉄、+カルシウム、+葉酸、+ビタミンC の計5種類）
- ●販売価格：
  - ・スターターセット（「ごはんのみらい」専用保温容器+「ごはんのみらい」7食）
    「プレーン」3,780円（税込）／「栄養素+」3,930円（税込）
  - ・リフィル（「ごはんのみらい」14食）
    「プレーン」3,780円（税込）／「栄養素+」4,082円（税込）

「栄養素＋」は、プレーンをベースにマルチビタミンと不足しがちな栄養素をプラスしています。

連結決算ハイライト

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結貸借対照表（要旨）

2022年3月31日現在

（単位：百万円）

区　分	金　額
流動資産	180,299
固定資産	247,307
資産合計	**427,606**
流動負債	120,775
固定負債	88,928
負債合計	**209,703**
株主資本	196,494
その他の包括利益累計額	14,674
非支配株主持分	6,733
純資産合計	**217,903**
負債純資産合計	**427,606**
設備投資等の金額※	**27,913**
有利子負債（リース債務除く）	**104,718 (90,172)**
1株当たり純資産額	**1,630円84銭**

連結損益計算書（要旨）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

（単位：百万円）

区　分	金　額
売上高	**602,696**
営業利益	**31,410**
経常利益	**31,667**
税金等調整前当期純利益	**35,107**
当期純利益	**24,268**
親会社株主に帰属する当期純利益	**23,382**
減価償却費	**21,089**
研究開発費	**1,939**
1株当たり当期純利益	**176円72銭**

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

（単位：百万円）

区　分	金　額
営業活動によるキャッシュ・フロー	**34,660**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△26,016**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△14,179**
現金及び現金同等物の期末残高	**23,340**

※設備投資等の金額は、有形固定資産および無形固定資産に係る投資額の合計金額です。

会社概要 (2022年6月24日現在)

社　名	株式会社ニチレイ
所在地	〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
設　立	1942年12月※
役　員	代表取締役社長　大櫛顕也
	取締役執行役員　川﨑順司
	取締役執行役員　梅澤一彦
	取締役執行役員　竹永雅彦
	取締役執行役員　田邉弥
	取締役執行役員　鈴木健二
	社外取締役　昌子久仁子
	社外取締役　鍋嶋麻奈
	社外取締役　濱逸夫
	社外取締役　濱島健爾
	常勤監査役　加藤達志
	常勤監査役　片渕哲郎
	社外監査役　齊藤雄彦
	社外監査役　朝比奈清
	社外監査役　清田宗明
	執行役員　狩野豊
	執行役員　横井英夫
	執行役員　髙久祐一
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー

※前身の帝国水産統制株式会社の設立年月
1945年12月 日本冷蔵株式会社に改組

株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 …… 360,000,000株
発行済株式総数 …… 134,007,795株
(うち自己株式 4,522,808株)
単元株式数 …… 100株
株主数 …… 23,648名

■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	26,656	20.6
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	11,824	9.1
日本生命保険相互会社	5,744	4.4
株式会社みずほ銀行	3,813	2.9
株式会社三菱UFJ銀行	3,406	2.6
株式会社日清製粉グループ本社	2,719	2.1
農林中央金庫	2,675	2.1
第一生命保険株式会社	2,323	1.8
富国生命保険相互会社	2,050	1.6
住友生命保険相互会社	1,855	1.4

(注)1.持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。
2.持株比率は、自己株式(4,522千株)を控除して計算しています。
小数点第2位で四捨五入して表示しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定日	定時株主総会・期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日
上場証券取引所	東京(プライム)
証券コード	2871
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号　みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告により行います。公告掲載場所は当社ホームページhttps://www.nichirei.co.jp/とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載します。

上場株式等の配当等に係る税金についてのご案内

2013年12月31日をもって上場株式等の配当等に係る軽減税率が廃止されており、今回の第104期期末配当金の税率は本則税率となります。また、2037年12月31日までは、復興特別所得税として基準所得税額に対して2.1%を乗じた金額が課税されます。具体的な税率は下表をご参照ください。

■上場株式等の配当等に係る税金と税率

	2037年12月まで	2038年1月以降
所得税	15.315%	15%
復興特別所得税		–
住民税	5%	5%
合計	20.315%	20%

※上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
※発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主様につきましては、別の税率となりますのでご注意ください。
※詳細につきましては、所轄の税務署にお問合せください。

株主・投資家、個人投資家向け情報サイト

最新IRニュース、最新の決算発表情報をご覧いただくことができます。また、個人投資家向け情報サイトでは、個人投資家説明会時の決算資料をはじめ、ニチレイグループのことをわかりやすく紹介しています。

●ニチレイメーリングサービス
ニチレイWebサイトの更新情報や新商品の情報を、電子メールでも受け取ることが可能です。登録は無料ですので、どうぞご利用ください。

https://www.nichirei.co.jp/ir